

第2回江別市住生活基本計画検討委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成30年9月27日（木） 10:00～11:45

場 所：江別市教育庁舎 1階大会議室

出席者：江別市住生活基本計画検討委員会委員9名、事務局4名

| 江別市住生活基本計画検討委員会（敬称略） （◎委員長 ○副委員長） | | |
|--------------------------------------|--------|----------------------|
| 番号 | 氏名 | 備考 |
| 1 | ◎小室 晴陽 | 北翔大学 |
| 2 | ○中田 雅美 | 札幌学院大学 |
| 3 | 伊藤 武 | 江別市自治会連絡協議会 |
| 4 | 小林 好子 | 江別不動産業協会 |
| 5 | 桜田 峰子 | （一社）北海道建築士会札幌支部 |
| 6 | 田原 久美子 | 江別市社会福祉協議会 |
| 7 | 中井 和夫 | 市民公募 |
| 8 | 西町 なつみ | 市民公募 |
| 9 | 工藤 省吾 | 北海道石狩振興局産業振興部建設指導課主幹 |
| | | |
| 出席9名（1名欠席） | | |

| 事 務 局 | | |
|-------|-------|---------------|
| 番号 | 氏名 | 備考 |
| 1 | 木谷 泰彦 | 江別市建設部建築住宅課課長 |
| 2 | 岡山 宰士 | 江別市建設部建築住宅課主幹 |
| 3 | 石塚 雅弘 | （株）ドーコン |
| 4 | 松木 琢磨 | （株）ドーコン |
| 出席4名 | | |

傍聴者数 0名

■ 1. 開会

■ 2. 委員長挨拶

■ 3. 議事

(事務局より「第1回検討委員会における質問事項への回答など」について説明)
(質疑なし)

(1)「5. 住民意向調査」・「6. 江別市の住宅・住生活を取り巻く課題の整理」について(資料1)

(事務局より資料説明)

○中田副委員長

- ・住民意向調査においては、高齢者からの回答が多くなっているため、これを前提と考えることが必要ではないか。
- ・定住をキーワードとしている中、15歳から64歳の意向をどのように反映していくかが大切と思われる。
- ・なお、5つの課題に関しては、このような捉え方で妥当であると思う。特に、セーフティネットが重要と考えられるため、ぜひ施策として取り入れていただきたい。

○小室委員長

- ・今後、高齢化がさらに進行していく中、その声を拾えたものと理解できるだろう。多少の偏りはあったとしても、高齢期は誰でも迎えるものであり、重要な結果と捉えることができると考えられる。

○中井委員

- ・前回委員会で指摘した転入者意向も反映されており、内容は良いと思う。
- ・市内の居住動向として大麻地区の例を挙げると、札幌市に隣接している特性や札幌市よりも土地価格が比較的安いことなどから、住みかえ事例が多く子育て世帯の転入も進んでいる状況である。市内の他の地区においても、このような動きがあれば良いと考える。
- ・一方では、公共交通の利便性などから、高齢者が札幌市へ転出していくという実態もある。

○事務局

- ・大麻地区での住みかえの動向は統計数字でも把握でき、持ち家への支援制度の効果が表れているのではと考えている。
- ・一方、札幌市への転出はやむを得ないといえるが、高齢者が転出した後に、新た

な子育て世帯が入ってくるような流れができれば良いと思っている。

○工藤委員

- ・住民意向調査の結果が課題に反映されているなど、適切なまとめ方であると思う。
- ・周辺環境の評価において、道路への不満が多くなっているが、具体的にはどのような内容か。

○事務局

- ・自由回答において、道路に凹凸があるなどといった意見が出されていた。

○田原委員

- ・全体的によくまとまっていると感じる。
- ・一方、江別地域においては買い物などが不便と思われるが、全市の結果と地域別の結果の区分がわかりづらい部分もあるのでは。

○小室委員長

- ・同じ項目でページが分かれており、読み手の誤解が生じ易い部分があるため、ページ構成を工夫する。

○桜田委員

- ・子育て世帯の転入促進に向けては、保育所も重要な要素と考えられる。

○事務局

- ・後段でのご説明となるが、福祉等の計画・施策との連携といった項目において、包括的な視点にて記載している。

(2)「7. 江別市の住生活基本計画の基本方針」・「8. 施策の展開方向」・「9. 本計画の実現に向けて」について(資料1・資料2)

(事務局より資料説明)

○小室委員長

- ・施策の体系表において「新」と記載のある項目は、新たに現在進めている施策ということか。

○事務局

- ・現行の「住宅マスタープラン」には記載されていない施策という趣旨であり、現在進めているものも含めた表現としている。

○伊藤委員

- ・自治会活動を行っている中で、空き家の問題が大きいと実感している。
- ・空き家対策に関する施策があるのは良いと思うが、前回委員会で示された数字と、今回記載されている数字が大きく異なるようだが如何か。

○事務局

- ・空き家には様々な捉え方があり、国の調査における約6,600という数字は、賃貸用の空き室・売却用物件等も含めた、広い意味での空き家の総数である。
一方300という数字は、これらを含まない「その他の住宅」として分類されるもののうち、空き家等対策計画において対応すべき空き家として、所有者意向や現地調査等を通してまとめた数字である。

○小室委員長

- ・空き家の表記については、誤解が生じないように、その旨説明を加えることとする。

○田原委員

- ・近隣にて、空き家と思われる家屋がみられるところであるが、空き家の定義について今一度確認したい。

○事務局

- ・一見空き家と思われても、物置として利用されている場合、入院等で不在でも家財がそのままである場合等様々なケースが考えられるが、所有者が現在使用しているか否かで判断している。
- ・なお、従来より所有者に対して家屋の適正管理はお願いしており、この計画においてもその旨の表記を検討したい。

○中井委員

- ・今般の地震に伴う停電においてエレベーターや給水がストップしたことから、集合住宅では高齢者が自ら上層階まで、階段を利用し水タンクを運ぶという状況がみられた。こういった際の助け合いも重要と思われるが如何か。

○事務局

- ・災害時を含めた助け合いについては、「安全で快適なまちづくり」といった項目に関連すると考えられる。
前後の関係を再度見直し、適切な部分に反映したい。

○中田副委員長

- ・定住を促進していくためには、買い物や公共交通の利便性などの暮らしやすさが重要と考えられる。これについて記載することは可能か。
- ・また現状として、資源としては確保されているが、アクセスに問題がある場合などもみられる。

○小室委員長

- ・後段において記載されている計画の進行管理などにおいて、ご指摘のような視点も持ちながら計画を進めていくという必要があるだろう。

○事務局

- ・基本計画という本計画の性格上、具体的な記載、他分野に関連する事項については、別途、個別の計画における扱いと考えている。

○中井委員

- ・コンビニエンスストアが立地していないエリアもみられ、不便と感じている。都市計画分野の問題かと思われるが、定住促進には重要な事項といえるため、本計画においても記載してはどうか。

○事務局

- ・基本的には、他の分野の事項や具体の事項については、それぞれの個別計画での扱いという考えであるが、本施策の中で「横断的かつ総合的な取り組み」などとして述べている部分があるため、これらでの中での反映を検討したい。

○小室委員長

- ・ご指摘の内容は、定住促進に向けた基本的な考え方として扱っていく。

○中井委員

- ・大麻団地における施策が記載されているが、団地は他の地域にもあるのでは。

○事務局

- ・大麻地区に大規模な団地があるのは江別市の一つの特色として捉えられ、そういった趣旨から記載している。
- ・生活利便性については、当然、広く全市に関わるものであると認識している。

○田原委員

- ・他の部門が所管する計画においても、同様の内容が記載されている印象があるが如何か。

○事務局

・何れの部門の計画も市の総合計画に基づいて策定されていることから、表現が似たものとなるのは必然と考えられる。また、安心して暮らせるといった事項では、福祉などとも関連する部分も多いと思う。

○小室委員長

・本計画は、住空間を意識した計画である。このような中、同じ計画が複数存在するという誤解を受けるのは本意では無いため、本計画の役割や意味付けをどこかに記載しておく。

■ 4. その他

次回の委員会について

■ 5. 閉会